

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも…

Vol.37

それって「お門違い」



8月初め、友人からLINEで連絡が来ました。「鳥羽市のチラシが今、テレビで紹介されているよ」というものでした。何のことかな?と思いきや、ニュースを確認してみると、7月末に市が作った差別防止チラシが大きく拡大されて、「こんな行為はみなさん、やめましょう!!」とアナウンサーが力説していました。

鳥羽市では「コロナ差別」が起きないようにと啓発のためのチラシを作りました。そのチラシが驚いたことに民放の情報番組のパネルとなって使われていたのです。ほかの自治体のように、倫理観に訴える前に、「そもそも責める相手が間違っている」という表現に注目が集まったのではないのでしょうか。

コロナ差別については残念ながらいくつかのまちでも起こってしまっていると感じています。PCR検査の結果、陽性と判定が出るやいなや、この

誰なのか一生懸命探そうとしたり、憶測や推測でウワサしたり、誹謗中傷したりする人があらわれます。

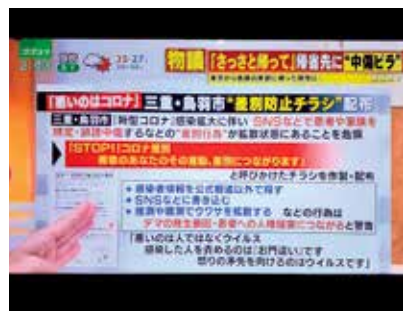
私が怖いと思うのは、みなさん知らず知らずのうちに善意や正義感でやってしまうことです。つまり誰でもコロナ差別の加害者になりうるということです。そもそもウイルス感染は風邪やインフルエンザと同じように、どれだけ気を付けても完全に防げるものではないのです。誤った情報をい

たずらに拡散することは人々の不安を煽り、感染拡大防止の妨げにもなりかねません。悪いのは人ではなくウイルスです。感染した人を責めるのは「お門違い」なのです。

今月の広報には「STOP!! コロナ差別」啓発クラフト絵本が折り込んであります。今さらと言われるような手洗いうがい・マスクや、3密回避ですが、この生活様式こそが感

染防止に効果をあげていると言われています。この地道な行動を通じて幸せな鳥羽をつくりていきたいと思います。同じ呼びかけでも、少し趣向を変えて小さな本になるよう仕立ててあります。子どもさんだけでなく大人のかたも童心にかえってまずは指先からコロナ差別について考える機会になれば幸いです。

※お門違い：目指すところを
取り違えていること。見当
違い。筋違い。



8月4日・10日放送のCBCテレビ
(ゴゴスマ)で紹介されました



こんな風に出来あがってきます



Vol.196

教育委員会生涯学習課

☎ 1268

リフレミング

何に価値を認めるかという考え方や善悪、好悪などの価値を判断するときの見方は、人それぞれがその人なりのものを持っています。

しかし、ものの見方や考え方、枠組み(フレーム)は、相手や事象への先入観や偏見につながってしまう場合があります。「リフレミング」とは、その枠組みを外して違う枠組みで見ることで、プラスのとらえ方をしたり異なる視点で見たりするという手法です。例えば、人を評価する「頑固」や「臆病」という言葉はマイナスの印象でとらえられることが多いですが、言い換えれば「違う視点で見れば」「意志が強い」「慎重」とも言えます。

リフレミングは、人権に関

する研修会などでは、参加者の緊張を解きほぐし、「コミュニケーション」をとりやすい雰囲気を作ったり、お互いを理解し合い目的の達成に積極的に関わってもらえるようにしたりするときに使われます。また、人権学習では、自分や他者を多面的にとらえる視点を持ち、お互いを肯定的にとらえ合うことの大切さに気付くために取り入れられています。人権・同和教育自体がリフレミングであるといわれます。

これらのことから、リフレミングを通して人権を学ぶときに、次の2点が大切であると思います。

①「物は言いよう」ではなく、肯定的な意味づけが大事であり、相手をより深く理解し、その人の個性を丸ごと認めること

②ただ積極的・肯定的になればよいということではなく、違う立場に立つて理解し共感することから始まること

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない中、今までなら改めて考えることがなかったそれぞれの日常をリフレミングすることで、新たな発見があるかもしれません。